

No. 18-52 第20回リーダーを目指す技術者倫理セミナー —品質の逸脱はなぜ防げないのか：データ改ざん・ねつ造のパターンを知る—

(技術と社会部門, イノベーションセンター 合同企画)

協賛(予定) 日本技術士会, 可視化情報学会, 計測自動制御学会, 自動車技術会, 精密工学会, ターボ機械協会, 日本計算工学会, 日本航空宇宙学会, 日本塑性加工学会, 日本鑄造工学会, 日本マリンエンジニアリング学会, 日本ロボット学会, 溶接学会, 化学工学会, 日本建築学会, 土木学会, 電気学会, 日本化学会, 電子情報通信学会, 日本船舶海洋工学会, 日本航海学会

開催日 2018年6月9日(土) 10.00~17.00

会場 東京工業大学キャンパスイノベーションセンター東京 5階501室

〒108-0023 東京都港区芝浦3-3-6

JR 山手線・京浜東北線 田町駅から徒歩1分

都営地下鉄浅草線・三田線 三田駅から徒歩5分

<http://www.cictokyo.jp/access.html>

今回のテーマおよび論点

「データ改ざん・ねつ造のパターンを知る」

最近, 日本の産業を支える企業で, データ改ざん・ねつ造が行われているとの報道が増加している。これらは, 組織ぐるみで行われていることも少なくない。その結果, 日本の企業の信頼性を損ない, 国際的な競争力の低下を招き, 技術立国としての日本の将来が危うくなって来ている。

この不正行為の構造として考えられるのは, 経営者が技術者に高い目標を課し, 現場の技術者はそれに応えようとするが, 達成できないとき, 経営者が直接, 不正行為などを指示していなくても, 技術者は経営者の意向を付度し, やってはいけない行為を行ってしまうケースや経営者が自分の保身のため, やってはいけない行為を指示するケースなどがある。

上記, 2つのパターンに追い込まれたときの技術者が取るべき行動について考えたい。

事例としては, 神戸製鋼所, 東洋ゴム, 三菱自動車, 羽田国際空港液状化対策のデータ改ざん・ねつ造を取り上げるが, その善悪ではなく, セミナーで検討する討議課題としては,

- ・決められた数量・数値が達成できないにもかかわらず, 経営者から指示が出されたとき, 現場を統括する立場の技術者は何ができるか。
- ・現場で不適合な状態が出たが, その情報を経営者に伝えずに, 現場で処理しようとしたとき, 管理する立場の技術者はどうすればよいか。

について, 皆さんと議論を深めたい。

セミナーでは, 次の手順により議論を進める。

1. 事前に配付された資料による自主学習
2. 「テーマおよび論点」説明
3. グループ意見交換において, 自分の意見を明らかにする
4. 全体討論において自分の立場を明確にして議論する

事前に配付する資料を読んで頂いて, 参加されることを前提とする。

プログラム

10.00～10.10／セミナーの趣旨説明，本日の進め方

横浜国立大学 大学院工学研究院 教授（主査）高田 一

10.10～10.30／討議の趣旨と逸脱パターン

東京工業大学 イノベーションマネジメント研究科 特任教授 中村昌允

10.30～11.30／事例の説明（神戸製鋼所，東洋ゴム，三菱自動車，羽田国際空港液状化対策）

高田 一

明治大学 理工学部 准教授 村田良美

KoPEL 技術士 小西義昭

オカダ・アソシエーション 技術士 岡田恵夫

11.30～11.40／討議の進め方

岡田恵夫

11.40～14.00／グループワーク

< 討議課題 >

- ・決められた数量・数値が達成できないにもかかわらず，経営者から指示が出されたとき，現場を統括する立場の技術者は何ができるか.
- ・現場で不適合な状態が出たが，その情報を経営者に伝えずに，現場で処理しようとしたとき，管理する立場の技術者はどうすればよいか.

14.00～17.00／技術者倫理に関する全体討論

講師全員

司会 高田 一

定 員 30名，申込み先着順により定員になり次第締め切ります。

参加費（資料代含） 会員 3,000円，会員外 5,000円，参加費は当日会場にて申し受けます。5月28日までに，お申し込み下さい。事前に（6月1日ごろ）E-mailで資料を送信いたします。~~以降は，定員に余裕がある場合，当日受付いたします。~~資料配布後のキャンセルはできません。

※定員に達したため，当日受付不可

申込方法 「No.18-52 第20回リーダーを目指す技術者倫理セミナー参加申込み」と題記し，(1)所属学協会，(2)氏名，(3)勤務先・所属，(4)E-mailアドレスを明記の上，E-mailにて下記までお申し込み下さい。

申込先・問合せ先 日本機械学会 技術と社会部門(担当職員 篠原 江利奈)／E-mail:shinohara@jsme.or.jp
／FAX (03) 5360-3508